

# 島根県立大学短期大学部 総合文化学科

## 平成30年度 客員教授講演会

講師 有元伸子先生（広島大学大学院教授）

演題 三島由紀夫の最後の小説・『豊饒の海』を読む

～有元伸子先生より～

『豊饒の海』4巻（1965～71年）は、三島由紀夫の最後の小説です。

生まれ変わりがモチーフなのですが、特に最終巻の終わり方は呆然とするくらい不思議で、私は皆さんと同じくらいの年齢で初めて読んで、小説というもの奥深さに強い衝撃を受けました。

今回は、この『豊饒の海』の第1巻「春の雪」を、原稿や創作ノート、さらに映画化や舞台化なども参照しながら、皆さんと一緒に読んでみたいと思います。

昨年引き続き、お会いできることを楽しみにしています。



### 【有元伸子先生のご紹介】

1988年、広島大学大学院文学研究科博士課程後期国語学専攻修了。金城学院大学、鈴峯女子短期大学勤務を経て、2004年より広島大学大学院文学研究科教授として今日に至る。博士（文学）。

専門は日本近現代文学。〈語り〉・〈ジェンダー〉・〈アダプテーション（翻案）〉などを切り口として、三島由紀夫や主として昭和以降の現代作家の小説・戯曲の新しい魅力や読み方について研究されている。

有元先生の編による『21世紀の三島由紀夫』（2015年、翰林書房）は、没後45年間にわたる三島由紀夫の多面的な解釈を総括し、三島文学の新たな可能性を探った画期的な著作である。

日 時：平成30年12月12日（水）10:40～12:10

場 所：島根県立大学松江キャンパス 図書館棟大講義室

問合せ：0852-26-5525（代表）

※入場無料・事前申し込み不要・駐車場あり